

第1学年 国語科 授業構想シート

授業者 宮脇 隼

本実践の主張点	昔ばなしの多読を通して共通や相違に着目させ、語り部による「和歌山の昔ばなし」を聞くことで、昔ばなしの「かたり」と「つくり」に対する見方・考え方を働かせ、感じたことや読み取ったことを伝え合う子どもが育つだろう。
---------	--

1. 単元名 「かたり」と「つくり」 ～むかし むかし、あるところに～

2. 1年A組の子ども

1年A組の子どもたちは、国語科で文学作品の印象的な歌や会話文の音読を通して、声を合わせて読む、動作化を交えながら読むことで、その心地よさや言葉の響きの楽しさを感じてきた。また、挿絵を効果的に使うことで、登場人物の会話文を考えたり、物語の順序を考えたり、場面の様子や物語の大体の内容を読み取ってきた。その際、同じ会話文でも登場人物の行動が違うこと、同じ歌でも場面の様子が違うことなど、叙述をもとにして比較し考える問いを教師が作ることで、理由を入れながら自己の考えをもつことができるよう支援を行ってきた。ただし、それは国語科として文学作品と関わる姿であり、子どもたちの日々の読書につながることはあまり見られなかった。子どもたちは、図鑑、迷路のように絵を見て楽しむ本や、科学歴史まんがや、本当に読んでいるのかわからない高学年向けの本を借りる子が多い。本実践では、昔ばなしの多読を通して他者と交流し、面白さを発見し、物語を読み味わうような読書のきっかけとしたい。

3. 何を学ぶのか

① 単元の目標

語りや読み聞かせによる音声言語、または読書による文字言語での昔ばなしの多読を通して、「かたり」と「つくり」それぞれの共通・相違に着目し、見方・考え方を働かせることで「昔ばなしってさあ、〇〇やん。」を発端とし、感じたことや読み取ったことを伝えようとするができる。

② 教材の価値

昔ばなしは、古くから耳で聞かれ、語りの中で後世に伝わってきた文学作品である。「語り口(かたり)」には、語り手の工夫があり、聞き手を惹きつけるものとなっている。また、文章の「特徴や内容(つくり)」はシンプルなものも多く、様々な共通点を見つけることができる。そのため、1年生の子どもたちにも、楽しくてわかりやすい作品が多い。

本実践では、昔ばなしを「かたり」と「つくり」の二つの視点でとらえる。「かたり」では、これまでの読み聞かせと語り部からの語りを、「つくり」では、多読を通して様々な昔ばなしと比較する。そうすることで、共通や相違に着目し、昔ばなしを自分なりに意味づけ、読み味わうことができると考えている。

4. 主張の具体

昔ばなしの多読を単元の軸とし、「日本の昔ばなし名作50選(東京書店)」からいくつかの作品と語り部から語られる「和歌山県の昔ばなし」を中心教材とする。それぞれの昔ばなしの「いいな、好きだな」を考えることで、この作品が自分にとってどのような意味をもつのかを1年生の子どもの言葉で表現させたい。そして、その想いを他者と伝え、昔ばなしの読みを広げていく子どもを目指している。これらの過程で、子どもたちに働かせたい自己調整の姿は以下のものである。「昔ばなしを受け止めるための見方・考え方」を昔ばなしの多読でもたせる【単元における「気づく」】。昔ばなしを受け止めるための見方・考え方とは、「かたり」視点では、①会話文、②歌い方、③方言、④声の大きさである。「つくり」視点では、①登場人物像、②結末、③歌、④繰り返し表現、⑤重要なアイテムである。教師による意図的な教材の配列でつかませたい。教材のそして、その見方・考え方を活用し、和歌山の昔ばなしを「かたり」と「つくり」に着目し、自分なりの言葉で意味付けさせる【単元における「決める」】。そうすることで、語り部から受け取った和歌山の昔ばなしを、自分の言葉で他者へ伝え、つないでいく子どもが育つと考えている【単元における「動く」】。

5. どのように学ぶのか

①学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

指導と評価の計画（全8時間） 本時 7 / 8	
気づく・決める	本実践までの昔ばなしとの関わり（子どもたちに気づかせたい昔ばなしの《音読・読み聞かせ》） ・《歌》国語科「おむすびころりん（光村図書）」 ・《会話文・声の大きさ》教師、保護者ボランティアによる読み聞かせ ・多読「日本の昔ばなし 名作50選（東京書店）」
	第1次：昔ばなしの「つくり」を読む。（子どもたちに気づかせたい昔ばなしの【つくり】） ①【登場人物像・結末】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 知 （教材：「桃太郎」「金太郎」） ②【登場人物像・歌・結末】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 知 （教材：「おむすびころりん」「した切りスズメ」） ③【繰り返し表現・結末】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 知 （教材：わらしべ長者） ④【繰り返し表現・重要なアイテム】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 知 （教材：「三まいのおふだ」「地ごくのあばれもの」）
気づく・動く	第2次：和歌山の昔ばなしを読む。（子どもたちに活用させたい昔ばなしの《かたり》【つくり】） ⑤《会話文、方言、表情》語り部さんから、昔ばなしの語りを聞こう。 思 （教材：扇の芝のたぬき、しじみの三兄弟、こんにやくぼんさん、おさるの地蔵さま） ⑥《会話文・方言》【登場人物像・結末】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 思 （教材：扇の芝のたぬき） ⑦《方言》【繰り返しの表現・結末】いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 思 （教材：しじみの三兄弟） ⑧昔ばなしの、いいな、好きだなと思うところはどこですか？ 主・思

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するためのカリキュラム・デザイン

国語科 これまでに学習した文学作品 ・印象的な言葉や会話文を、声をそろえて読むことの心地よさ。（音読による言葉の響き） ・場面の様子や登場人物の行動の大体をとらえる。（時間的な順序）	「和歌山昔ばなしを語る会」（語り部）との出会い ・「和歌山県の昔ばなしを知る。 ・昔ばなしの内容や、語りから、これまでの国語科の学習とのつながりを見つける。 生活科「むかしからのあそびをたのしもう」 ・「昔ばなし」を共通の言語とし、老人クラブの方とつながる。つたえる。
国語科「かたり」と「つくり」～むかし むかし、あるところに～ ・多読による昔ばなしの「つくり」の共通、相違を見つける。 ・和歌山県の昔ばなしの語りを聞き、自分たちで読むことで、私たち地域の伝統的な言語文化のよさに気づく。（「かたり」と「つくり」） ・自分なりに意味付け、感じとったり、読み取ったりしたことを、伝える。	
国語科 昔ばなし「たぬきの糸車」 ・昔ばなしの「つくり」を活用し、登場人物の行動を具体的に想像する。内容の大体をつかむ。	

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 昔ばなしの作品のつくりにおいて、共通、相違など、作品と作品の関係について気づいている。（2）ア 昔ばなしを通して、私たちの国や地域の伝統的な言語文化に親しんでいる（3）ア 	<ul style="list-style-type: none"> 多読で得た見方・考え方を働かせ、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。C（1）イ 多読で得た見方・考え方を働かせ、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C（1）エ 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで昔話を読み、これまでの学習をいかして、和歌山の昔ばなしを読み、自分なりの言葉で感じたこと読み取ったことを他者と交流し、昔ばなしの面白さに気づいている。

国語科学習指導本時案

授業者 宮脇 隼

日時：2021年12月8日（水）第4校時（11：40～12：25）

対象：第1学年A組 30人

本時の気づき	和歌山県の昔ばなしの「いいな、好きだな」を問うことで、これまでの学習で身につけた昔ばなしの見方・考え方を働かせ、自己の読みを伝えあう子どもの姿につながるだろう。
--------	--

1. 本時の構想（働かせたい考え方と学習課題について）

<input checked="" type="checkbox"/> くらべる	<input checked="" type="checkbox"/> つなげる	<input type="checkbox"/> まとめる	<input type="checkbox"/> わかる	<input type="checkbox"/> 予想する	<input type="checkbox"/> 見方を変える
--	--	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

本時では、和歌山県の昔ばなし「しじみの三兄弟（出典：きんぷくりんとかんぷくりん 小澤昔ばなし研究所）」を主教材として授業を行う。この作品は、和歌山昔ばなしを語る会の語り部による昔ばなしの語りの中の一つである。この作品は、他の昔ばなしでも使われる「三」の繰り返しがあり、三兄弟の中でも末の弟が富を得る結末となっている。第1・2時で学習したように善人が幸福な結末、悪人が不幸な結末を迎えることから、末の弟の登場人物像からも物語の結末をつかみやすい。また、その繰り返しの構成を第3時「わらしべ長者」で学習したような図で示すことや、第4時「三まいのおふだ」「地ごくのあばれもの」のように「三」という印象的な数字にも着目させることで子どもたちも内容の大体をつかみやすいものとなっている。

本時では、「かたり」にも着目することができるが、より「つくり」に焦点を当てて、これまでの多読で身につけた昔ばなしの見方・考え方を活用した読み取りを行う。教師が考える子どもたちに活用させたい「つくり」の見方・考え方は、【登場人物像・繰り返しの表現・結末】の3点である。

2. 本時における調整場面としかけ

本時における調整場面は、これまでの昔ばなしの学習で身につけた見方・考え方を働かせ、比べたり、つなげたりする場面である。そのためのしかけは、発問（問い返し）と学びの可視化（掲示、板書）である。発問では、この単元を通してそれぞれの昔ばなしにおいて「いいな、好きだな」を問いとしてきた。異なった昔ばなしでも、同じ問いで始めることで、より似ているところや違うところに目を向けさせることができると考えている。また、子どもの想いの意図を教師が拾い、全体に広げることで、他者とのつながりの中で昔ばなしへの自分なりの読みを構築していく子どもの姿を目指している。教室環境では、これまでの学習で身につけた見方・考え方が可視化された掲示や、本時であつかう教材の登場人物像や繰り返し表現、結末を含む物語の大体に着目できるような板書を心がける。例えば、この物語の登場人物を考える際も、3まいのしじみの絵を用いることで、1匹1匹に注目し、それぞれの登場人物像の違いを考える。これらのようなしかけが、昔ばなしの多読で身につけた見方・考え方を働かせるためのきっかけとなると考えている。

3. 本時におけるめざす子ども像

昔ばなしに対する見方・考え方を働かせることで、和歌山県の昔ばなしと子どもたちが知っている昔ばなしの共通や相違に気づき、和歌山県の昔ばなしへの自分なりの想いを交流する中で、昔ばなしを楽しみ、読書を広げようとする子どもの姿が見られることを期待する。

4. 本時の目標

多読で身につけた昔ばなしの見方・考え方を働かせ、登場人物の行動や作品の内容などから「いいな、好きだな」を交流することで、和歌山県の昔ばなしに対する自己の読みを形成することができる。

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 前時までを振り返り、本時の作品と課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの昔ばなしの学習において、どのような読みを行ってきたのかを意識させ、本時の作品や課題を読む視点を想像させる。 語り部さんの語りを聞いた際の感想から、作品のイメージやそのときの感じたことを思い出させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「しじみの三兄弟」のいいな、好きだなと思うところはどこですか？ </div>	
<p>2. 作品を読んだり、他の作品と比べたりして、「いいな、好きだな」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「しじみの三兄弟」も、最後に幸せな終わりをするといいよね。 ○このお話のいいところって、どこかな…？みんなは、どう思っているのだろう。 ○語り部さんたちの、語り方がとっても面白かったな。 ○このお話にも「三」が出てきたなあ。なんで「三」なのかな。 <p>3. それぞれの読みを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○この本（日本の昔ばなし名作50選）の中にも、繰り返しのある話があるよ。 ○同じような三兄弟の話だと、「三匹の子豚」があるよ。一番下の弟の家が助かるんだよね。 ○三兄弟がそれぞれに乘る生き物がいるんだけど、竜宮へ行くことができるわけと行くことができないわけがあって、面白いな。 ○亀に乗って竜宮へ行くのは「浦島太郎」と一緒だね。 <p>4. 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和歌山県の昔ばなしも、これまでに読んだ昔ばなしと似ていて、面白いお話だったな。 ○初めは似ているところを見つけることができなかったけど、〇〇君の話を聞いて、よくわかったよ。 ○和歌山県の昔ばなしをお母さんにも教えてあげたいな。 ○大阪にも昔ばなしってあるのかな？ ○図書室にある昔ばなしも読んでみたいな。 	<p>【登場人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しじみの三兄弟をそれぞれに分けて、挿絵を用意し、三のまとまりを意識させながらも、一匹一匹の登場人物像を読み取らせる。 ・長男…ひとりで先に行ってしまう。次男…じゃんけんに負けたのに横取りをする。三男…かめには乗らず、後をついていく。 <p>【繰り返しの表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しじみの三兄弟とそれぞれ乗る生き物の順序をとらえさせ、繰り返しの表現になっていることに気づかせる。 ・これまでの作品と関連させ、三回の繰り返しの表現を読み取らせる。 <p>【結末】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しじみの三兄弟がそれぞれ乗る生き物も用意し、具体物を操作させながら、結末への因果関係を視覚的にわかるようにする。 ・これまでの作品と関連させ、善人が幸福な結末になることを読み取らせる。 <p>・子どもたちの振り返りをもとに、振り返りの視点を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①友達の名前や発言内容が入っているもの(協働) ②具体的に次にやってみたいことが書けているもの(主体、活用) </div> <p>【思】昔ばなしの見方・考え方を働かせ、登場人物の行動や作品の内容などから「いいな、好きだな」を交流することで、和歌山県の昔ばなしに対する自己の読みを形成している。</p>